

NPO 純正律音楽研究会会報 ～2010年10月発行～

ひびきジャーナル



〒106-0031 東京都港区西麻布 2-9-2 Tel:03-3407-3726

Fax:03-3797-5640 e-mail:puremusic0804@yahoo.co.jp

No.26

発行日 平成22年10月29日

発行責任者 玉木宏樹

編集 NPO 法人 純正律音楽研究会
玉木宏樹・相坂政夫



今年の猛暑も「暑さ寒さも彼岸まで」と言う諺通り、お彼岸から急に寒くなって参りました。皆様お元気でお過ごしのことと思います。ひびきジャーナル No.26 の発刊です。9月25日「ラリール」での「お箏とヴァイオリンの純正律音楽コンサート」には沢山の方々にご来場頂き、誠にありがとうございました。8月には、雑誌『壮快』10月号に聴力アップ「純正律」と題して記事が掲載され、付録に純正律 CD が付けられました。その反響は多大で事務局の方に電話が殺到し、「耳鳴りが治りました」とか「だんだん良くなっている」とか「付録の CD 以外に純正律 CD はありませんか」等々で事務局は大忙しでした。毎年恒例の都電貸切コンサート、今年も12月23日に開催致します。ご予約等、詳細は巻末にございます「今後のスケジュール」にてご確認ください。

♪巻頭対談♪

《健康雑誌『壮快』で話題になった純正律 CD》

対談、鈴木雪子さん(『壮快』編集部)

玉木宏樹

先日、全国で一番知られている健康雑誌『壮快』10月号の付録CDに当研究会の純正律音楽が紹介され、たいへんな話題になりました。テーマは「耳鳴り、難聴が改善した人続出の純正律」でした。私、玉木は10年以上前から純正律音楽の作、編曲をヴァイオリン演奏を主にしたCDを15枚以上リリースしてきましたが、別に音楽療法を意識したわけではなく、平均律の濁った「ドミソ」より純正律の美しくハモった「ドミソ」の方が人に優しく、和むだろうというコンセプトだけでした。そして18年前にCBSソニーより出した「ピュアミュージックによる理想的ストレス解消」という日本初の純正律CDはそこそこの話題になり、事務所にも購入者からのいろんな反応のメッセージが来ました。それはありがたいのですが、大半の反応が「おかげで、3曲くらいでグッスリ眠れるようになりました」というような内容で、私は真底ガッカリしました。というのもそのアルバムには16曲収録されているのに、人のアルバム、なぜ最後まで聞かないんじゃ、と半ば怒りさえ覚えたくらいです。そのCDを監修してくれた作曲もやる私の主治医、ドクター福田六花氏にその話をすると、「玉木さん、それはね、とてもリラックス効果があった、という話なんだよ」と言われ、フーン、そんなものかなあと思っていると、ビックリ仰天のファックスが来ました。「私はいつも3曲か4曲で熟睡してしまうので勿体ないし、先生にも失礼だと思い、今度こそ最後まで聴こうと自分を柱にくくりつけて聴き始めました。しかしやっぱり4曲目で寝込んでしまいました」

その内、『壮快』の編集者、鈴木雪子さんにこの音楽の話が伝わり、誌面で紹介され、1年か2年に一度、何回か特集が組まれました。その内結婚されて、約3年の産休の後もういちど付録CD付きで今度は「耳鳴り、難聴が大改善！耳がぐんぐん若返る！純正律名曲集」として私の曲が5曲紹介されました。そして、本文中に純正律音楽研究会の電話番号を載せてもらったところ、問い合わせの電話が殺到し、通販CDもかなり動きました。『壮快』の編集部にも電話がたくさん寄せられたようで、編集長直々にお礼のメールを頂きました。

私はドクターに「耳鳴りとか不快な痛みとかの治療用に作曲したんじゃないし、本当に効果があるんだろうか」と訊くと「症状や痛みの根源は治せないけど、患者さんはその症状の為に不快感とイライラがつのり、ストレスがたまっているの、症状の根源を5とすると、不快感は10以上になっている。純正律はそのストレスを改善するので、5の状態に戻るだけですごい効果を発揮したことになる」ということでした。なるほど、という訳で、今回は多忙極まりない鈴木雪子さんに電話インタビューでお話を伺いました。



(鈴木雪子さん)

今月はその紹介です。

それでは早速、質問させていただきます。

玉木：出身地はどこですか？ 『壮快』に入るきっかけは？

鈴木さん：生まれも育ちも宮城県仙台市です。大学進学のため上京しました。

親の影響で昔から健康法に関心があり、一方で出版の仕事にも興味があつたので、新聞広告を見て入社試験を受けました。

玉木：あなたの音楽歴とか体験とかあれば。無ければかまいません。

それと好きな音楽とかジャンルとか。

鈴木さん：その昔、ピアノとクラリネットを少々。弦楽器の経験はまるでないので、玉木先生のヴァイオリン演奏には毎回いろいろな意味で感動してしまいます！

玉木：純正律とか、私のことを知ったきっかけはなんでしたっけ。

鈴木さん：玉木先生のホームページを拝見したのがきっかけだったと記憶しています。純正律の存在自体、そのとき初めて知ったという門外漢ぶりでしたが、体調が改善した方のお話が多数紹介されていたので、これは...！と思いご連絡させていただきました。

玉木：過去にも特集を組んでもらっていますが、その反響はどうでしたか？

鈴木さん：まずCDの全員プレゼントを企画したところ、予想をはるかに上回る数のご応募をいただいてしまい、大慌てしました。

その後、玉木先生のご協力でCD付録を2回企画。どちらも読者から大きな反響をいただきました。

最も多く寄せられているのが「純正律のことはよくわからないが、

とにかく聴いていて気持ちがいい」という感想。理論に興味がない人も含め、純粹に音楽に感動していただけた証拠と受け止めています。
玉木：以前、一緒に河口湖へ行ったような気がするのですが、なんのためでしたっけ。

鈴木さん：河口湖ではなくて...御殿場じゃありませんでしたっけ??

ロマンスカーでご一緒させていただいたような記憶が。

(うろ覚えでスミマセン)

たしか、福田六花先生企画の介護老人保健施設でのコンサートに玉木先生が出演され、それを取材させていただきました。

玉木：結婚および、お子様誕生おめでとうございます。産休はどのくらいでしたっけ。

鈴木さん：ありがとうございます！**2006**年秋に長女、**2008**年秋に次女を出産しました。**2006**年夏から**1**年間、**2008**年夏から**1**年間、それぞれ産休・育休を頂戴しました。

玉木：今回の企画のきっかけは？

鈴木さん：聴力は、視力と並んで読者の関心が高い分野です。純正律のCD付録をつけることができるなら、まず間違いなく多くの読者に喜んでいただける特集になると思い、企画しました。

玉木：いよいよ本題です。今回の読者からの反響は？（出来るだけ詳しくお願いします）部数にも反映したとか言うようなことはありますか？過去の特集と違うことがあればそれもお願いします。

鈴木さん：読者から編集部寄せられた声の一部をご紹介します。

「心が落ち着いてリラックスできました。耳鳴りもよくなったように思えます」 **49**歳男性

「親子関係で悩みがあり、心療内科に通うなどいろいろ試しましたが、何かスッキリしませんでした。付録のCDを聴いたらめまいや耳鳴りも消え、好転しそうな勢いです」 **31**歳女性

「とても美しい曲でストレスもなくなり、耳にもよい影響を与えてくれるようです」 **50**歳男性

「最初の音を聴いて涙が出そうになった」 **51**歳女性

これまでの純正律の特集と共通した傾向ですが、特に男性からの反響が目立ちます。『壮快』読者には女性のかたが多いので、これは

非常に特徴的な点ですね。

純正律音楽研究会の会員の男女比はいかがでしょう...？

玉木：女性の方が少し多いかな。さて、私はヒーリングミュージックとか音楽療法のジャンルには無縁なんですけど、あなたは、そういうジャンルの人たちに会ったことはありますか？もしあれば、その人たちの印象と私の違いなんか、感じたことがあればよろしくお願いします。

鈴木さん：何人かの方にお目にかかったことがありますけど、玉木先生ほど「癒し」を全く意識せずに作曲されている方はいらっしゃいませんでした（笑）それでも、多くの方の症状が実際に軽減しているのだから、玉木先生の純正律音楽の力には驚きを禁じえません。

玉木：今後、『壮快』主催もしくはそれに準ずるようなミニコンサートを展開したいなあと思っていますけど、それに対するお考えがあればお願いします。

鈴木さん：玉木先生の演奏会に伺うと、生音の持つ迫力や繊細な表現が全身で感じられます。CDでは伝えきれない魅力、ですね。読者向けのミニコンサート実現に向けて、引き続きご相談させていただければと思っておりますので、今後とも何卒よろしくお願いたします！

以上です。鈴木さん、有難うございました。

尚、『壮快』は月、13万部の売れ行きで、健康雑誌では日本で1.2を争っているそうです。少なくとも13万人の方に付録CDが行き渡ったことになります。

純正律が認知される絶好のチャンスを与えて頂きました。これからもよろしくお願いします。



天国的純正律音楽入門 第26回 連載

《邦楽と純正律、あれこれ》

純正律音楽研究会代表

作曲家・ヴァイオリン奏者 玉木宏樹

私は今年の4月、箏奏者の吉原佐知子さんの為に「オンディーヌの眼覚め」と題した、お箏独奏曲を作曲し、提供しました。この曲に限らず、私は邦楽の作曲が多く、邦楽の人たちにも友人がたくさんいます。三味線奏者の西潟昭子さんとも親しく、彼女が主宰する現代邦楽研究所(洗足音大内)の講師もやっていますし、弾けもしないのにNPO法人 現代三味線音楽協会の理事にも名を連ねています。そのかわりといっは何ですが、彼女には純正律音楽研究会の理事をやって頂いています。

みなさんは邦楽がどういう音律で成りたっているか、御存知でしょうか？邦楽って音程が悪いから音律なんて関係ないだろう、なんて思わないで下さい。なぜ音程の悪い人が多いのか、というと、いわゆる素人衆が多いのと、情緒表現を追いすぎて、根幹の音律追求をする人が少ないせいです。結論を先に言いましょう。邦楽は中国理論の強い影響で、ピタゴラス音律で成り立っています。

ピタゴラス音律での「ドレミファソ」の音程の決め方は中国では三分損益と言い、日本の俗語では「順八逆六」と言いますが、全く同じ原理であり、中世ヨーロッパ音律のピタゴラスと全く同じです。因みに私の新曲もピタゴラス音律です。

「順八逆六」の説明をしましょう。「順八」というのは、基音を「一」として半音ずつ上がって行き、「八」に到達した音の高さのことを言います。基音が洋楽の「ド」なら「ソ」に当たります。しかし実際には半音ずつ調弦せず、「ド」に対する完全5度上の純粹にハモった「ソ」を合わせます。次に「逆六」ですが、今度は「ソ」から半音ずつ6回下がった「レ」を合わせます。これも完全4度のハモった音程を取ります。ここからまた「順八」の「ラ」、「逆六」の「ミ」を取ります。ここで一応打ち切って音を並べますと「ドレミソラ」というプリミティブな5音音階が生まれます。このピタゴラス5音音階は世界中に存在し

ます。日本人にはなじみ深いスコットランド民謡の「蛍の光」、そして北島サブちゃんの歌う「函館の女」が典型的です。

「六段の調」を作曲した八橋検校はこの「ドレミソラ」という陽旋法に対し、「ミ」と「ラ」を半音下げる、陰旋法を編み出したと言われていました。この半音下げは「順八逆六」を上行形ではなく、下行形にした時に現れるものです。この陰旋法は当時、粋な雰囲気としてもはやされ、その前のあつけらかんとした「ドレミソラ」を田舎節とし、粋な半音下げを都節としました。この粋さを、現代に引き継いだのが演歌で、この旋法は世界中でも実に稀なものといわれていますが、実は、古代ギリシャではよく使われていた旋法でした。この旋法もピタゴラス音律であることは言うまでもありません。「六段の調」の典型的な半音は平均律の半音の音程を 100 とすると、90 という、ちゃんと数式に乗った狭さなのです。

三味線は邦楽では一番新しい楽器で、琉球の三線が伝わったとも言われていますが、日本でまさに独創的な工夫がなされ、世界に誇るサウンド楽器として生まれかわりました。それは「サワリ」です。二の糸、三の糸は通常の音なのですが、一番低い一の糸にはサワリという倍音発生装置があり、ビョーンという野太い共振音を生み、この共振によって、倍音がたくさん同時に鳴るのです。

倍音を並べ替えると純正律に近くなり、二の糸、三の糸の開放弦を弾いた時にも

「サワリ」が共鳴するので音程もとり易く、ふくよかな音になるのです。

倍音上の第三音(ドに対するミ)はピタゴラスよりも 100 分の 22 低く

なるのですが、日本はお箏が主流だったため、開放弦以外はピタゴラスで取ります。



洋楽の和声法の基準は「ドミソ」ですが、邦楽での「ドミソ」はピタゴラスのため、「ミ」が高くなりすぎ、とても濁ります。邦楽の基本和音は 4 度和音系の「ドレファソ」で、箏でよく使われています。後は次号にて。

ムッシュ黒木の純正律講座 第26時限目

平均律普及の思想的背景について(15)

純正律音楽研究会理事 黒木朋興

前回、今現在もなお平均律 18 世紀普及説が根強いのは、そこに平均律に対する信仰があるからであるという話をした。今回は「平均律イデオロギー」とも言うべきこの信仰が具体的にどのようなものであるのかを見てみたい。

この「平均律イデオロギー」は以下のマックス・ウェーバーの文章に典型的に表れていると言えるだろう。

芸術についてもこれと異なるところはない。音楽的聴覚は、ほかの多くの民族のところにおいて、今日の西欧におけるよりも一層微細な発達をとげたように思われる。いずれにしても、西欧に較べて遜色はなかった。さまざまな多声性は世界中いたるところに広まり、多くの楽器で行う合奏やディスカント唱法さえも西欧以外にあった。また、西欧の合理的音程も、のこらず西欧以外のところで計算されて、よく知られていた。しかしながら、合理的な和声音楽—対位法ならびに和音和声法—も、すなわち和声的 3 度による三つの主三和音に上に音素材を組み立てることも、また、ルネッサンス以来、間隔的にでなく合理的な形で和声的に解釈されてきた半音階法と異名同音も、西欧だけにしかなかった。¹

ここで強調されているのは、明らかに西洋中心主義である。洗練された音楽文化は西洋だけでなく世界各地に見られるが、しかしその中で西洋の音楽だけが独自の発展を遂げた、ということだ。その独自の発展の成果とは、「合理的な和声音楽 = (和声的 3 度による三つの主三和音に上に音素材を組み立てること)」と「合理的な形で和声的に解釈されてきた半音階法と異名同音」である。もちろん前者は調性システムを、そして後者は（ヴェルグマイスター律以降の広義の）平均律を指していることは言うまでもない。つまり平均律とそれに支えられた調性システムこそが西洋と西洋以外を分ける決定的な特徴となっているということだ。

¹ M.ウェーバー、「宗教社会学論文集」序言, in『音楽社会学』, 創文社, 1967, pp.256-7.

更に、ウェーバーにおいてはこれらの特徴が進化の思想と結びついていることに注意しておこう。早速、有名な『音楽社会学』の一節を引用してみる。

等分平均律は、固定した音律をもつあらゆる楽器のために、ほねのおれる闘いの後に勝利を収めたのであり、理論の面ではラモーの影響下に、また実際の演奏の面については、J・S・バッハの"平均律クラヴィーア集" *Wohltemperiertes Clavier* と彼の息子の作った教科書との影響のもとに、究極的に勝利を収めたのである。

整律は、和音音楽にとっては、和音が自由に進行するための前提であった。整律がなかったならば、この和音の自由な進行は、さまざまな7度や、まったく純正な5度、3度、6度、それからまったく純正でない5度、3度、6度、などが並存している中で、永久に圧殺されたに違いないから。整律は、しかしそれだけでなく、周知のごとくいわゆる"異名同音的変換" *enharmonische Verweckslung* によって、和音の自由な進行のために、ポジティブに、まったく新しく、最高度に生産的な転調の可能性をも与えた。異名同音的変換、すなわち、ある和音またはある音を、現在おかれている和音関係から別の和音関係に意味転換することは、すくなくともそれが意識的に転調手段として使用されるかぎりにおいて、近代固有のものである。²

ここでははっきり「等分平均律」と明言されている。この等分平均律の開発によって西洋音楽は複雑な転調が可能となり、この様々な転調の可能性の追求によって西洋音楽の調性システムは高度な発展を遂げたわけだが、まさにこのような発展こそ「近代固有のもの」に他ならない、とウェーバーは言っているのだ。音楽は西洋近代（＝現代／モダン）において他のどの地域も成し遂げられなかった進化を遂げた、ということであり、ここで語られているのはまさに「西洋における進化」の思想である。

ここでウェーバーの歴史観を確認しておこう。世界各地にはそれぞれの知の体系がある中で、西洋だけが「自然科学」という進化を達成し得た、という歴史観である。その科学技術力を背景に西洋列強が世界を席卷したことは周知の事実だろう。ここにおいては西洋中心主義もさることながら、原始時代から現

² M.ウェーバー、『音楽社会学』, *ibid.*, , p.200.

代そして未来へと人類は「進化」する、という「歴史」の思想が表れでているのが分かる。20世紀の特にポストモダンの時代には、このような進化思想に基づいた歴史観に厳しい批判が加えられたことは記憶に新しい。しかし、ウェーバーが生きた20世紀初頭の時代においては芸術のジャンルに過ぎなかった音楽が、ギリシア以降西洋の長い歴史においては科学の重要な一分野であったことを見抜き、音楽史を自然科学史の一部として切り取ってみせたウェーバーの炯眼ぶりは賞賛に値するだろう。

21世紀を迎えた現在においては、「進化」の歴史は既に過去のものとなり、これを全面的に信じている論者などほとんどいないに等しい。しかし、そうは言いつつもこの歴史観は様々な局面において生き残っており、まさに平均律支持者の思考にももの見事に反映されていることが確認出来る。つまり、平均律の問題を捉え直す、ということは実のところ、「進化の歴史」を再考するという事に他ならないのだ。

CD レビュー—純正茶寮

<サクラから春の海まで>

純正律音楽研究会代表 玉木宏樹

このCDレビューは、今まですべて世界中の純正律的な内容を紹介してきました。従って私自身の作曲・編曲・演奏ものはあえて紹介してきませんでした。しかし今号では、「壮快」での純正律CDの話題沸騰ぶり、そして、邦楽と純正律についてのお話を書いたこともあり、我田引水ではありますが、今年4月に、すでに15枚目くらいになる「日本のメロディ サクラから春の海まで」をリリースしてこれを紹介することに吉原佐知子さんと私のものであり、1曲(サクラ)の三絃に参加してもらって



私の純正律CD「サクラから春の海まで」をしたこともあり、思い切ります。このCDは、お箏ヴァイオリン演奏によるだけ御大、西潟昭子さんいます。

お箏伝統の音律はピタゴラスであり、「ソレラミ」を完全にハモった調弦にするヴァイオリンもピタゴラス原理で、そのため、最初からピタゴラス音律で作られた曲ならば、音程面では相性抜群です。お箏は13本しか絃がないので、多くの音程は出ません。しかし、琴柱という一種の駒の移動によって違う旋法を

たくさん作れるし、調弦にない半音は押し手という左手で弦を押さえることによって表現できます。西洋のハープは、グランドハープの場合、47本も弦があり、ペダルによって半音変化できますが、音の並び、位置は決まっています、押し手のような微妙な変化はありません。ピアノを始め、ハープ、フレットによるギター等々、みんな最初から音の高さ、位置は決定されています。カポタストをはめるギターにしても原理的には移調しているだけです。それに比べ、邦楽器の中でも一番音決めに拘っているように見える箏も、琴柱の移動、押し手等によって、束縛から免れているのです。音程に関しては固定的な位置がないという融通無下な自由さが邦楽器の特長です。私はその利便性を活かし、平均律ではない、純正律とピタゴラス音律を駆使して一枚のアルバムを作りました。ピタゴラスの場合、コルグのチューニングメーターがすぐれもので、これを中心にし、純正律の曲は、基音の3度上と6音上の音を22セント(半音の百分の22)低くします。純正音律に比べれば、間に合わせ的でもありますが、普通の曲の場合、これで充分美しい響きになります。9月に茗荷谷のラリールという小ホールで行ったお箏とヴァイオリンのミニコンサートで、ピタゴラス音律から22セント低くする調弦の実際を見たお客さんからは「オーッ」という歓声も起こりました。

さて、このCDに収録されている曲名と、音律を紹介しておきましょう。

1. サクラ(ピタゴラス音律)
2. 童謡メドレー(純正律)
3. 花(純正律)
4. うれしい雛まつり(ピタゴラス音律)
5. 叱られて(ピタゴラス音律)
6. おぼろ月夜(純正律)
7. 七つの子(純正律)
8. 荒城の月(ピタゴラス音律)
9. 宵待草(純正律)
10. 竹田の子守唄(ピタゴラス音律)
11. 琵琶湖周航の歌(純正律)
12. 城ヶ島の雨(純正律)
13. 春の海(ピタゴラス音律)

このCDは私の会社(有)アルキの制作で、販売は純正律音楽研究会です。一般のショップでは入手が難しい場合、通販もやっております、純正律の会員の方には割引もありますので、03-3407-3726までお電話下さい。

「サクラから春の海まで」レーベルNo. ARCH-11001 定価2,100円(税込)

連続エッセイ【外科医のうたた寝】第24話
《超高齢化社会》

純正律音楽研究会 理事

元々は外科医であったが、2002年に河口湖に移住し老人介護施設の責任者(雇われ支店長)になってからは、メスを持つ機会は減っている。手術をしたい気持ちはあるが、老人介護の仕事に熱中しているのが現状である。連載のタイトルも「老人介護医者のうたた寝」に変えるべきだろうか？

日本は未曾有の超高齢化社会に突入しようとしている。2010年現在、日本人の25%が高齢者(65歳以上)であり、このままいくと2050年には40%が高齢者になると云う予想である。所在不明の100歳以上の老人の存在や、年金不正受給の問題など、高齢化社会ならではの変わったニュースが飛び交っていたのは記憶に新しい。

そんなハナシは横に置いて、実際の高齢者達は元気いっぱいである。先日、僕が施設長を務める<はまなす>で敬老会が開催された。賑やかな祝いの席で、節目を迎えたお年寄りが表彰を受けた。喜寿(77歳)、米寿(88歳)、白寿(99歳)そして、超長寿(100歳以上)である。<はまなす>で生活している100名のうち、なんと6名が100歳以上であり、喜寿、米寿あたりだと、まだまだ小僧、小娘クラスである。長寿の方の多くは非常に前向きで、現在でも万事に積極的だ。

最年長(104歳)のオバアサンは編み物をたしなみ、職員の名前もすべて覚えている。そしてこんな言葉を口にする。

「私は4年前に人間を辞めてバケモノになったから、あと何年生きるかわかりませんよ、、、、。」

こうなれば世界一を目指してもらいたい。ニュースでは深刻なハナシばかりの高齢化社会問題であるが、もっと明るく報じてもらいたいものである。(国にはもっと真剣に取り組んでももらいたい。)

11月になると<はまなす>は開設8周年を迎える。今年は玉木宏樹さんを迎えて<開設記念日・純正律コンサート>を予定している。100名を超すお年寄りと一緒に、美しい音楽を愉しむ予定である。

福田六花の医療、マラソンそして音楽に関する20年間の取り組みを綴った単行本好評発売中

<走れ!六花> アールビーズ社 ¥1575(税込み)

全国書店にて取り扱い中

ランネット <http://runnet.jp/> フリーダイアル 0120-17-7285

でもお求め頂けます。(送料無料)

連載 【偶然のみちびき】
(～BORELO 篇～)

純正律音楽研究会 理事

翻訳家・きき酒師 川合 浩

いままで、黙っていたことがある。それも中学時代から。人にも言えず、心の暗部となっていた。それをずーと抱えたまま、四十年。しかし、純正律を知って、その暗部から解き放たれた。

中学時代のことだ。音楽の授業で協和音と不協和音の話しがあった。その授業風景は、いまだにカラー映像としてめずらしく記憶に残っている。先生がピアノの前に座り和音を弾いた。「どう、きれいでしょう」と言った。私は心の中で「そうかなあ～？」と思った。次に別の和音を弾いた。「どう、きたないでしょう」と先生が言った。私は心の中で「おもしろそう！」と思った。ひびきがきれいと言われる協和音をピアノで聞かされたが、私には別にきれいだとは感じられなかった。しかし、世間の常識は「きれい」の判定である。私は自分が感じたことは黙っていることにした。

そして、ちょうど四年前、純正律なるものを知った。ピアノの平均律では、ほんとはハモっていないことを知った。中学時代の音楽の授業を思い出し、私の感性は正しかったんだろうと思うようになった。いまだから言える。「中学校の音楽の授業で聞かされたピアノの協和音は、きれいだとは思えませんでした。」

さて、本編である。

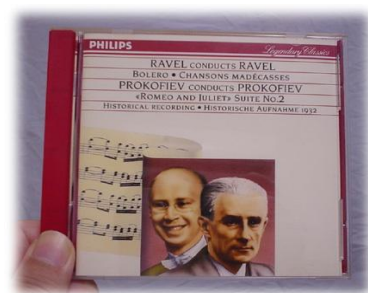
4年前、仕事の関係でネットを検索していたら、米国コネチカット州に住む邦人ジャズピアニストが偶然ヒットした。彼の住んでいる町は、スタンフォード。私も米国勤務時にそこに住んでいた。懐かしくなって、連絡を取ってみた。二三度メールのやりとりがあって、それきりとなった。

それから、一年後、彼からメールが来た。帰国するので、帰国コンサートを開催するという案内だった。会場の最寄駅は代々木上原。伺えるかも知れないと、返信はしておいた。

仕事の都合で、コンサート当日の午後になって、やっと時間がとれそうになった。コンサート会場に電話して、席があるかを確認し、予約をお願いした。電話の受話器を置くと、その瞬間、頭の中で音楽が鳴り始めた。何だろうと思ったら「ボレロ」だった。それがなぜ鳴り始めたのか、心当たりがなく違和感を憶えた。気になるので、いろいろ考えてみたがその理由は分からなかった。最近聴いたわけでもないし、最後に聴いたのはその十年以上前のような気がした。着替えを済まし会場へと出かけた。自宅から最寄りの明治神宮前駅に向かう間も「ボレロ」が頭の中で鳴り続けていた。随分と長い間鳴り続けていた。なぜ「ボレロ」なのか、その理由は依然として分からなかった。

代々木上原に着いて、やや道に迷いながらも、急な坂をえっちらおっちら登り、会場に着いた。受付で入場料を払い、プログラムを頂き、席に着いた。プログラムを開いたら、三部構成になっていた。第一部は彼のオリジナル曲。第三部はジャズのスタンダード。そして第二部は、「マザーグース組曲」。その作曲家欄に、モーリス・ラヴェル。えっ！モーリス・ラヴェル。このモーリス・ラヴェルって、「ボレロ」のラヴェル？
ほんとに驚いた。コンサートの予約をした瞬間から「ボレロ」が頭の中で鳴り続けていた理由がやっと分かった感じがした。
偶然にしても、とても不思議で、いまでも強く印象に残っている偶然だ。

写真の CD は、在米中に購入していたものから、
作曲家の自作自演シリーズの
「RAVEL conducts RAVEL - BORELO」



「Musica おおた」の音楽よもやまばなし
カンボジアの子供たちに音楽を
【第 1 話】

純正律音楽研究会 正会員

今回は、いままでと少し違った話題を2回に分けてお伝えしたいと思います。

私は現在、「JHP、学校を作る会」(以下 JHP)というところでボランティア活動をしています。まず、JHP の主な活動内容からご紹介しましょう。JHP は 92 年に、タイ国境からのカンボジア帰還難民の救援を実施したグループから生まれました。カンボジアでは、ポル・ポト政権時代に、宗教、芸術、教育が徹底的に破壊されました。学校はなくなり、あっても全く機能せず、子供たちは教育を受ける機会を失いました。JHP では、カンボジアの子供たちに教育の機会を提供するために、老朽化した校舎の修復や、学校の建設などを行っています。また、音楽教育、美術教育を強力にサポートしており、教材、教具の支援などを積極的に進めています。その中で私の役割は、音楽教育支援の一つとして、全国から寄せられた中古楽器をカンボジアに送るために整備、清掃することです。とにかく必要な楽器が足りない。いちばん欲しい楽器は、鍵盤ハーモニカだそうです。昨年 9 月から現在(10 年 8 月)までに、私の知る限りでは約 1600 台の鍵盤ハーモニカがカンボジアに送られています。東京事務所に 500 台くらい一度に届くこともあります。それを 1 台 1 台点検し、整備、清掃するのですが、これは多くのボランティアの方々によって成り立っています。しかし、いかんせん中古楽器のこと。状態の悪い楽器も結構あります。そこで私の小学校教員時代の経験と、リード楽器整備技術の出番です。うれしいですね。出番があるのは。

鍵盤ハーモニカはご存じのように口で吹くリード楽器であり、読んで字のごとく鍵盤のついたハーモニカです。息を吹き込む以上、水が入るのを防ぐことはできませんから、どんなに丁寧に扱ったとしても次第にリードはサビてきて劣化します。そういう意味では、リードは消耗品といえます。サビれば当然音程も狂ってくる。しかし、ここはある程度妥協しないと成り立たない世界。重音奏や和音奏はしないだろうとの前提のもと、サビやゴミをできるだけ落とし、リードの振動のしやすさを調整した上で、単音で吹いてみて音色、音程ともに不自然さが無ければ良しとしています。鍵盤や弁などの機能部分の故障は大半が直りますが、リードそのものの不良は修理ができないケースも少なからずあります。交換用のリードプレートも売っていますから、お金をかければ新品同

様に戻すこともできますが、現実にはそうはいきません。残念ながら「これは修理不能」というのが出てきます。全国の皆さんの好意で寄せられた楽器を1台でも多く生き返らせて、良好な状態でカンボジアの子供たちにとどけたいのはヤマヤマなのですが.....。

鍵盤ハーモニカのほかには、リコーダー、卓上木琴、タンバリンなどの小型打楽器類、アコーディオンなどもあります。やはりいちばん多いのは鍵盤ハーモニカです。手軽だし、誰が吹いても一応の音は出るし、教師自身、楽器を演奏するのは慣れていないようなので、指導する側からしても扱いやすい楽器なのでしょう。

さて、私たちの整備、清掃した楽器は実際の教育現場ではどのように生かされているのでしょうか。授業風景やマーチングバンドなどのビデオを見たことはありますが、やはりこの目で見たいものです。というわけで、私は本年12月に現地でのスタディツアーに行ってきます。次回はカンボジアレポートです。

お楽しみに。

イベントレポート

8月16日 月曜日

雑誌『壮快』発売

【美しいハーモニイで耳鳴り、難聴が改善した人続出の「純正律」】という特集記事が掲載されました。【聴力アップ「純正律」CD付録付き】で、聴いた沢山の方々から賞賛の言葉を頂きました。



8月21日 土曜日

【土曜のお茶会】開催

西麻布の喫茶店「フレンズ」で今まであまり玉木が演奏していない、「演歌」「歌謡曲」「童謡」等、昔懐かしい曲を聴いて頂きました。

ご参加頂いた皆様大変ありがとうございました。



9月25日 土曜日

【お箏とヴァイオリンの純正律音楽コンサート】開催



玉木は晴れ男でコンサートの日に雨に降られたことはありません。

前日までは雨でしたが、当日は嘘のような快晴、多くの方々にお越し頂き盛況の内に終了いたしました。

誠にありがとうございました。

CDのご案内

★ 純正律音楽 CD【聖夜】クリスマスキャンペーン

2010年12月末まで

3枚セット通常価格 7,140円

3枚セットで特別価格 3,500円



【ゆめ、くるみ割り人形】

ARCH-10405

定価 2,100円(税込)

【聖夜】

ARCH-10404

定価 2,625円(税込)

【響きの苑へ】

ARCH-10101

定価 2,415円(税込)

【会員向け特別価格】期間限定キャンペーン

体感音響装置内蔵

パーソナルリクライニングチェア

リクライニングチェアの製造メーカー、リビングテクノロジー株式会社が、

純正律音楽を使って「ムーブルサウンドキュア」というリクライニングチェアを発売いたしました。純正律音楽研究会でも推薦しております。

脳波の中でも、落ち着いているときには α 波(アルファ波)が多くなり、さらにリラックスしてくると θ 波(シータ波)があらわれます。平均律音楽と純正律音楽を聴き比べたときの脳波を測定すると。平均律音楽を聴いている場合の脳波は、 α 波は多少あらわれ、 θ 波はあらわれないのですが、あるていどリラックス状態が得られます。同じ曲を純正律音楽で演奏したものを聴いた場合の脳波は、 α 波が明らかに増え、 θ 波もあらわれ、より質の高いリラクゼーションが得られることがわかっています。

このリクライニングチェアで純正律音楽を聴くと、より効果的に質の高いリラクゼーションが得られます。

この度、NPO 法人 純正律音楽研究会会員の方には通常 246,750 円のところ特別価格 99,800 円で販売されます。興味のある方は純正律音楽研究会、事務局までお問い合わせ下さい。(12月20日受け付け分迄で終了致します)

今後のスケジュール

2010年12月23日(木)天皇誕生日

第15回 玉木宏樹の【♪都電貸切純正律音楽コンサート♪】

都電荒川線、早稲田駅午後2時出発～三ノ輪橋駅まで約50分の旅

出演：三宅美子(ハープ)・玉木宏樹(ヴァイオリン)

料金：4,500円(会員特別価格4,000円)

ご予約：電話 03-3407-3726 FAX03-3797-5640

mail：puremusic0804@yahoo.co.jp



おたより募集!

会報のご感想、ご意見、純正律音楽にまつわること等々、なんでもお寄せ下さい。たくさんのお便りを、お待ちしております。次号の【ひびきジャーナ

ル】にてご紹介させて頂きたいと思っております。

〒106-0031

東京都港区西麻布2-9-2 NPO法人 純正律音楽研究会

お電話：03-3407-3726 FAX：03-3797-5640

e-mail：puremusic0804@yahoo.co.jp

<http://just-int.com/>

<http://www.archi-music.com/tamaki/>

発行責任者： 玉木宏樹

編集： 相坂政夫

平成22年10月29日